

Hello

小学校・義務教育学校で プログラミング教育がはじまります

今日、様々な仕事をはじめ、学校での学習や家庭生活など、あらゆる活動にコンピュータが使われ、そこからたらされる情報を適切に選んだり、活用したりして問題を解決していくことが不可欠な社会となっています。このような社会を生き抜くには、児童がコンピュータの仕組みを理解し、効果的に活用していく力を身に付けることが極めて重要となります。こうした社会的背景を受け、小学校・義務教育学校前期課程段階から導入されることとなりました。

なぜ導入するのか

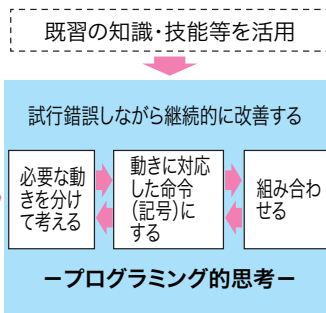
令和2年4月から、小学校・義務教育学校前期課程において、プログラミング教育が全面实施されます。なぜ導入されるのか、どのような力を育むのかを含め、品川区の取組をご紹介します。



コミュニケーション
ロボット「Sota」

どんな力を育むのか

小学校・義務教育学校前期課程におけるプログラミング教育では、①「プログラミング的思考の育成」、②「プログラムの働きやよさへの気付き」や「コンピュータ等を活用し問題を解決しようとする態度等の育成」、③「各教科の確実な学び」が目標となっています。



＜プログラミング的思考の育成＞

特に、①の目標は中核とされ、コンピュータ等を用いながら、自分が意図した活動を実現するために、動きをどのような順序で組み合わせるかなど、試行錯誤しながら論理的に考えることで育まれるとされています。

品川区の取組

区教育委員会では、今年度、NTT東日本と連携し、コミュニケーションロボット「Sota」を用いたプログラミング教育の学習プログラムを開発し、小学校2校でモデル実施しました。学習の中で、児童は自分の意図が動きに表れるよう、何度もプログラミングし直す姿が見られました。また、最先端のロボットを使用することで、情報社会への興味・関心を高めました。

今年度の取組を生かし、市民科や各教科の学習と関連を図りながら、各学校が特色あるプログラミング教育を展開できるよう支援していきます。



5年生の市民科で「Sota」を活用した授業風景（三木小学校）

パラリンピック競技大会が開催されます!!

オリンピック・パラリンピック教育

学校連携観戦プログラム

全区立学校・幼稚園では、平成28年度から区独自教材「よい、ドン!」ながわの活用や、区内開催・応援3競技であるホッケー、ビーチバレーボール、5人制サッカー（ブラインドサッカー）の体験教室の実施、また、世界ともだちプロジェクトの充実等により、オリンピック・パラリンピック教育を推進し、幼児・児童・生徒に「おもてなしの心」、「障害者理解」、「国際的な視野」などの資質を育んできました。

そして、7月から開催される東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を迎えるにあたって、全区立学校・幼稚園では、学校連携観戦プログラムに参加します。

学校連携観戦プログラムは、東京都オリンピック・パラリンピック教育の集大成として、都内の子どもたちが本大会の競技を学校単位で直接観戦する機会を提供するものです。本区では、

区内開催・応援3競技を含めた、オリンピック・パラリンピック競技を全ての子どもたちが観戦する予定です。

各校・園では、観戦する競技や競技に出場する国について、幼児・児童・生徒が理解を深め、興味・関心をもって観戦に臨めるよう、オリンピック・パラリンピック教育をさらに推進させ、本大会に向けた機運を醸成するとともに、大会後にはその後の人生の糧となるようなかけがえないレガシーを子どもたちの心と体に残していけるように準備しています。



「夢・未来プロジェクト」で元ホッケー日本代表 藤尾香織さんとのホッケー体験の様子（八潮わかば幼稚園）

新体力テスト 体力合計点平均値

東京都統一体力テスト調査結果から

(点)

男子	平成27年度 品川区平均	令和元年度 品川区平均	令和元年度 東京都平均	女子	平成27年度 品川区平均	令和元年度 品川区平均	令和元年度 東京都平均
1年	29.7	29.6	29.4	1年	29.1	29.8	29.3
2年	37.0	37.5	37.0	2年	36.9	37.5	37.2
3年	43.8	44.2	43.2	3年	44.0	45.2	43.6
4年	49.9	49.5	48.9	4年	50.6	51.1	50.0
5年	54.9	55.7	54.2	5年	56.1	56.4	55.9
6年	60.6	60.5	59.6	6年	60.6	61.7	61.1
7年	31.7	33.8	32.7	7年	41.9	44.6	44.2
8年	40.4	40.8	40.9	8年	46.3	50.3	49.6
9年	47.2	48.6	47.8	9年	49.0	52.8	51.7

品川区の結果概要

令和元年度 東京都統一体力テスト調査結果について

児童・生徒の体力合計点平均値は、東京都の平均値をほとんどの学年で上回っています。平成27年度の品川区の平均値と今年度を比較しても、同様に記録が伸びてきています。

その要因としては、小学校・義務教育学校前期課程では、全校にテクニカルアドバイザーが配置されたことにより、新体力テストの測定方法の徹底や、調

査に向かう意欲面を高めること等が実践されたことが挙げられます。

また、平成27年度より取り組んでいる「しながわアクティブライフプロジェクト」のスポーツライアルやワンミニッツエクスサイズによる運動例の紹介と日常化の実践も挙げられます。

一方、課題としては、小学校・義務教育学校前期課程の50m走と、中学校・義務教育学校後期課程の持久走については、昨年度に引き続きの課題となっています。

品川区の児童・生徒の体力向上に向けて、来年度開催される、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、児童・生徒が運動やスポーツにさらに興味・関心をもつとともに、自分の健康や体力にも関心をもてるよう、各学校と連携して、授業や体力向上、健康の保持増進に向けた取組の充実等を図ってまいります。



いよいよ東京 2020 オリンピック・

教育長杯各種大会をご存知ですか

教育長杯争奪 少年野球大会

第36回教育長杯争奪少年野球大会を、平成31年4月7日(金)和元年5月6日まで、しながわ区民公園で開催し、中学生の選手で構成された8チームが参加しました。

優勝…富士見台中学クラブ

準優勝…大井西ツインズ

第三位…EMクラブ

…西大井・倉田野球クラブ



富士見台中学クラブ



教育長杯争奪 少年少女サッカー大会

第17回教育長杯争奪少年少女サッカー大会を、平成31年4月7日(金)和元年12月8日まで、しながわ中央公園や八潮多目的広場を会場として開催しました。この大会の選手は5年生を主体としており、少年の部32チーム、少女の部2チームが参加しました。

【少年の部】

優勝…FCフェニックス品川

…A

準優勝…アンフィニ大井FC

第三位…nexo tokyo

FCU12

…品川SJC

【少女の部】

優勝…ユナイテッド大井

準優勝…品川レッド



FC フェニックス品川 -A

教育長杯小学生 バレーボール新人大会

第6回教育長杯小学生バレーボール新人大会を、令和2年1月13日に総合体育館で開催し、5年生以下の選手による13チームが参加しました。

優勝…立会アタッカーズ

V・B・C (男子A)

準優勝…NEW ASAMA

DAI

第三位…立会アタッカーズ

V・B・C (女子)



ユナイテッド大井



立会アタッカーズ V・B・C (男子A)

学校内外の活動でがんばった子どもたち

品川区児童・生徒教育長表彰 (スポーツ部門)

令和元年度品川区児童・生徒教育長表彰式が2月3日に行われ、【スポーツ】【文化】【善行】の3部門において活躍した児童・生徒が表彰されました。

スポーツ部門では、次の種目や分野で全国・国際大会等出場を果たした児童・生徒が、教育長より表彰状等を授与されました。

○水泳○陸上競技○体操○ダンス○ブラジリアン柔術○空手○少林寺拳法○柔道○ゴルフ○テニス○ドッジボール○サッカー○軟式野球○BMX○オリエンテーリング

表彰された皆さん、おめでとうございます。



2年生以上の全区立学校で実施

品川区学力定着度調査



品川区では、全区立学校の2年生から9年生を対象に毎年4月に、品川区学力定着度調査を実施しています。

本調査は、各学校が品川区立学校教育要領に示された教科の目標や内容の習得状況を把握し、自校の課題や解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図ることを目的としています。

調査は、2・3年生は国語・算数、4～6年生は国語・算数・社会・理科、7～9年生は国語・数学・社会・理科・英語の学力調査と、全学年で生活習慣や学習環境に関する質問紙調査を行います。

調査結果の活用としては、各学校は1学期末までに個人票を返却して、教科ごとの観点・領域

域別正答率および分析結果をもとに、今後の学習の進め方等を児童・生徒と家庭と共有します。

また、正答率度数分布や解答類型をもとに、校内で分析するとともに、校区教育協議委員会においても協議を行い、『品川区学力定着度調査』の結果から明らかにになった課題と学力向上に向けた取組』を作成して、学校のホームページで公表します。

教育委員会では、区全体の傾向を分析し、成果や課題を結果資料としてまとめ、各校に提示し、指導・助言を行っています。

今年度から、正答数の上位層（A層）から下位層（D層）までの25%刻みで4層に分類する^{しづん}四分位による分析方法を提示したり、全国学力・学習状況調査や東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査における類似

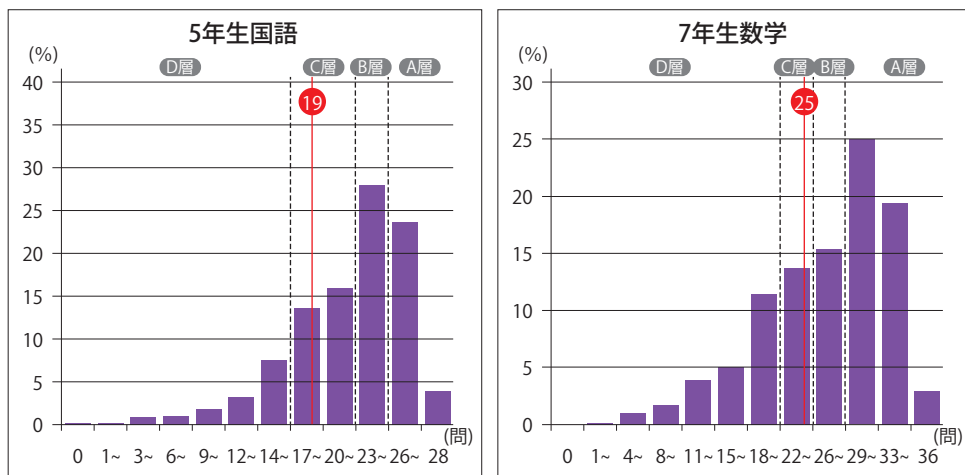
設問による経年比較を提示したりすることで、各校では分析結果から課題解決のための対策を立てたり、指導方法の工夫改善を図ったりしています。

今後とも本調査を通して、児童・生徒の学力の定着に努めてまいります。



平成31年度（令和元年度）品川区学力定着度調査結果（一部）

5年生国語、7年生数学における正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



品川区の正答数分布を上位層（A層）から下位層（D層）までの25%刻みで4層に分類。赤線はその教科の目標値（※）を示す。

※教科の目標値：学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、児童・生徒が正答できることを期待した問題数

■:拠点校 ■:新規拠点校 ■:巡回校



【訪問指導拠点校と巡回校】

令和2年4月から小学校・義務教育学校前期課程の特別支援教室拠点校を左図のとおり2校(三木小学校・台場小学校)増設して、巡回校を見直し更なる指導の充実を図ります。

特別支援教室拠点校を増設!!

城南小学校・幼稚園

新校舎・園舎が完成しました



城南小学校・幼稚園は、幼小一体型施設として、平成29年12月に改築工事に着手し、約27ヶ月の工事期間を経て、令和2年2月に校舎・園舎が竣工しました。新校舎・園舎は、延べ面積約9,000㎡、鉄骨造(一部鉄骨鉄筋コンクリート造)の地上4階、地下2階建て。普通教室18室、特別支援教室1室、特別教室などを備え、地下に屋内運動場を、屋上にプールを配置しており、1階の旧東海道側が幼稚園となっています。学校はエコスクールとして文部科学省の認定を受け、太陽光発電や太陽熱給湯等を設け環境学習に活用します。

文庫の森の旧三井文庫第二書庫、国登録文化財へ

文庫の森(豊町2丁目)にある旧三井文庫第二書庫が国の登録文化財になることとなりました。

この建物は、三井の江戸時代以来の営業記録などを保管整理する組織である三井文庫の二棟目の書庫として大正11年に完成しました。広い空間を得るため、柱ではなく壁で建物を支える「壁式鉄筋コンクリート造」という構造で造られ、現在残っている中では、わが国最古級となります。また入念な防火対策も特徴となっています。

戦後三井の手を離れ、昭和26年設立された文部省史料館(のちに改組し国立国文学研究資料館)がこの地に置かれました。同館が平成20年立川市に移転すると、品川区は防災機能を持つた公園とするため跡地を買収し、第二書庫はその文化的価値を重視し修理の上保存することとしました。修理は平成24年に終わり、周辺整備も完了した



関東大震災後の防火対策で、窓が半分ふさがれています

平成25年3月に公園は開園し、公募の結果、三井文庫として第二書庫にちなんで「文庫の森」と名付けられました。斬新な構造と防火対策が評価されて登録文化財に選ばれたのですが、職人の卓越した技も見逃せません。たとえば、一見タイル張りに見える外壁は、モルタルをタイル風に塗り、間を覆輪目地という、東京駅でも使われている高度な技法で仕上げたものです。

※国の登録文化財制度は、文化的価値のある建造物などを保存活用しようという仕組みで、指定文化財に比べ、修理等の手続きや制限が緩やかになっています。



登下校の午前8



に、啓発用の
イルなどの
へ配布した
り、活動
の周知の
ため広報
誌に記事
を掲載す
るなどし
て支援し
ています。

地域で支える認知症力
フエを目指しています。

平成30年度から荏原（えばら）なごみカフェ・五反田（モクヨン）五反田カフェ・八潮（ハチ）八潮（ハチ）とよかんCafe）図書館で「認知症カフェ」を開催しています。

誰でも参加できる認知症カフェは、様々な催しの中で認知症について考える機会として、また地域の交流の場としてもご利用いただいています。

美味しいコーヒーを飲みながら、様々な居場所としての身近な図書館を感じてみませんか？

◆主な実績・取り組みの内容は
回想法・かるた・クイズ・講演会・工作（ポチ袋やブックカバー等）・体操・朗読等です。

◆詳細は各館まで

荏原... 3784-2557

五反田 .. 3492-2131

八潮 .. 3799-1414



10月より品川図書館2階に設置しました。英語の勉強に役立つ「英語多読」、図や写真を多く使用し、誰でも簡単に読める「L」ブックなど、数種類の資料をそろえていきます。



【ユニバーサル
資料コーナー】

